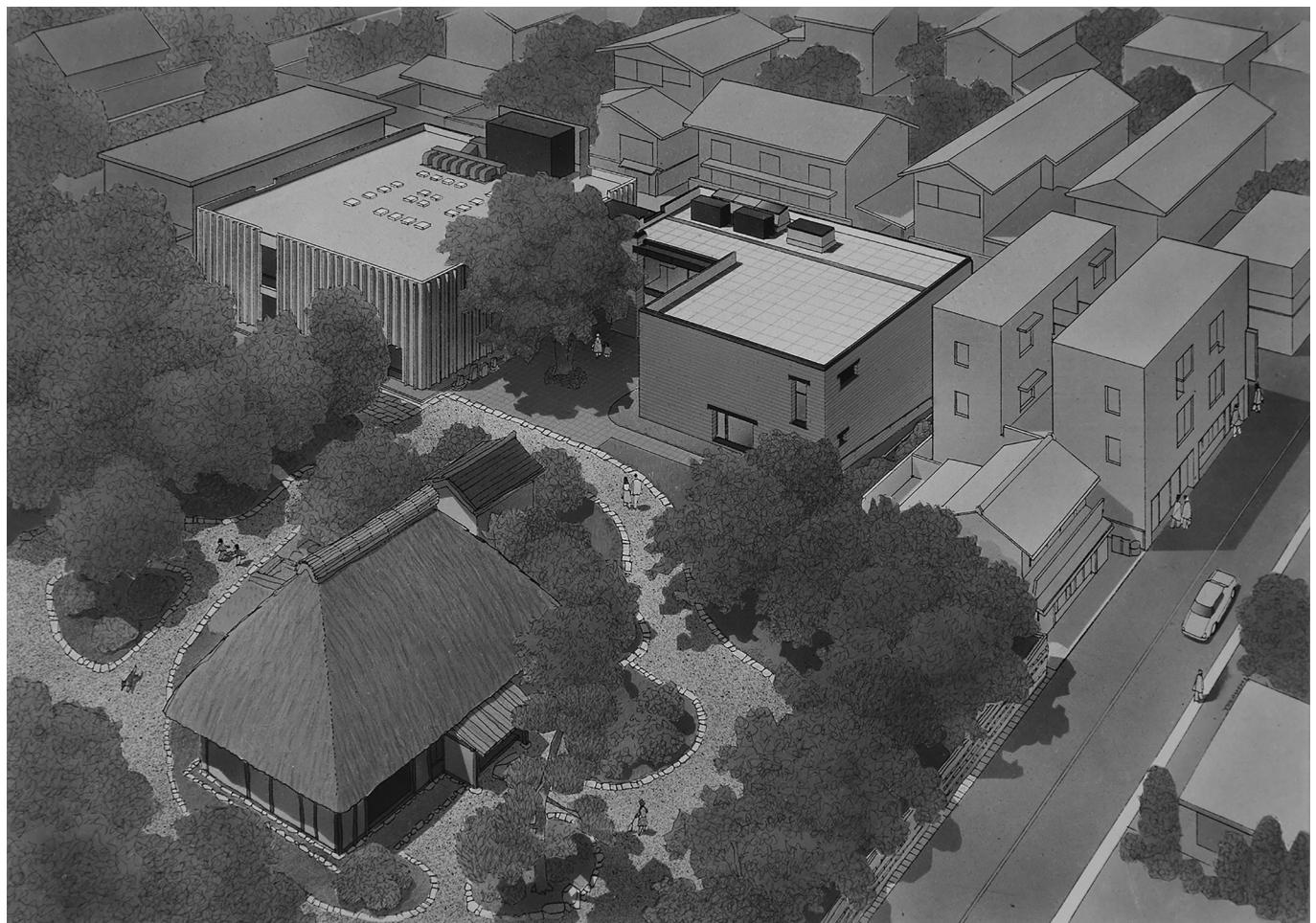


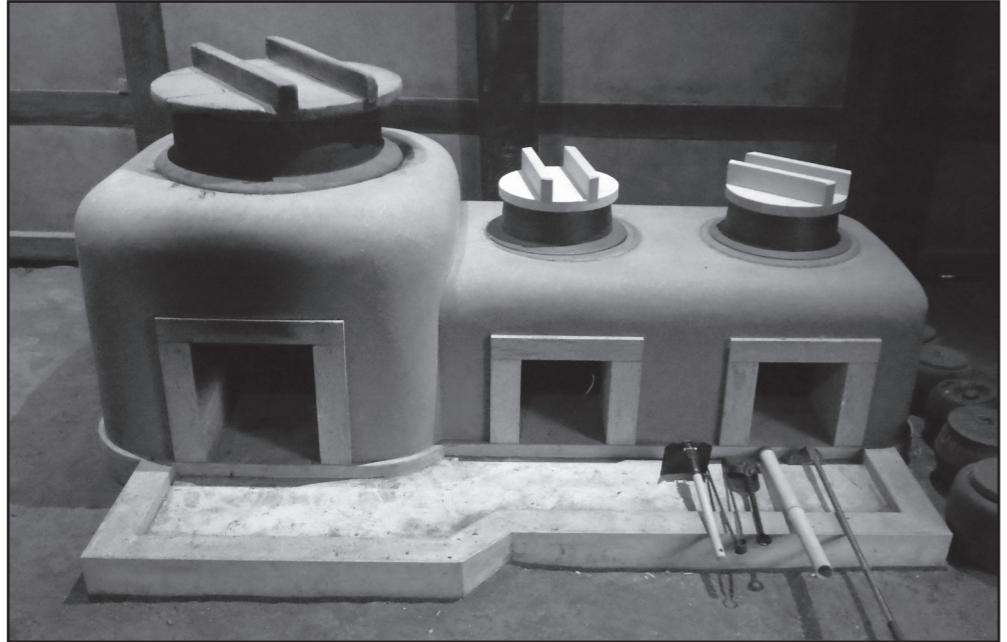
(答え)

世田谷代官屋敷
世田谷区立郷土資料館
学習ノート



年 組 (名前) _____

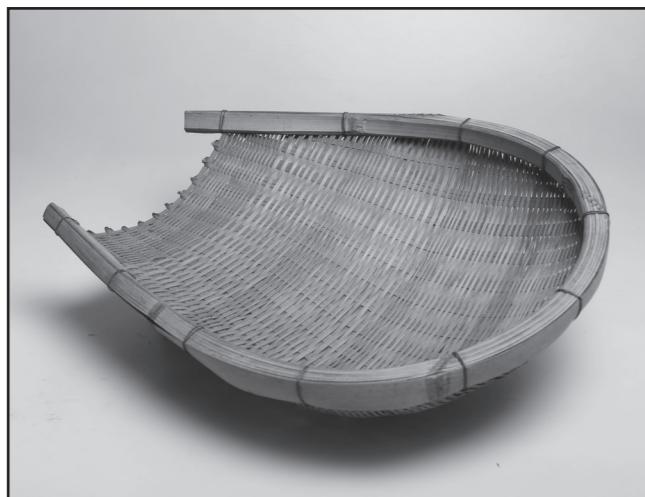
2. 昔の道具を見てみよう!



① 瓢 (かまど)



② 木 (ます／右・中央)、とかき (左)。



③ 米洗いザル



④ 羽釜 (はがま)



⑤ お櫃 (おひつ)



⑥ お櫃入れ (おひついれ)



⑦ お櫃台 (おひつだい)

道具の使い方を書いてね。写真の下に道具の名前が書いてあるよ。



答 え	に た せつび かま なべ 鍋をかけ、下で火をたく。 ①
	ます 米や酒等をかける道具。木で 米をすくったあと、盛り上がった 部分をとかきですりきる。 ②
	米を洗うための道具 ③
	かまど 籠にかけてお米を炊く道具 ④
	た 炊いたご飯を入れる道具 ⑤
	ひつ お櫃を中に入れ、炊いたご飯を ほおん 保温する道具 ⑥
	た 炊いたご飯を腐らないように通気 せい 性をよくするため、台にのせる。 ⑦

1. ボロ市が始まったのはいつ？

①始まりは400年以上前！

・天正6年（1578）頃に始まった。

・1ヶ月に6回、1と6のつく日（1・6・11・16・21・26日）に開かれていた。

②江戸時代（300年頃前～）のボロ市は？

・年に1度、12月15日だけ開かれ、「歳の市」といわれた。

※何が売られていた？

→正月用品、日用品、農具などが売られていた。（展示室のジオラマで確認しよう！）

③明治時代（200年頃前～）のボロ市は？

・年に4回、12月15日・16日、1月15日・16日に開かれた。

・店の数は、800～2000店。

・「ボロ市」と呼ばれるようになる。



③ ひもの 干物



④ かご 籠等



ボロ市の「ボロ」って何？

使い古した衣服、古着、ぼろきれのことを「ボロ」というんだよ。明治20年代になると、古着やボロをたくさん売っていたから「ボロ市」と呼ばれるようになったんだね。

2. 現在のボロ市

・12月と1月の15日・16日、計4日開催。

・約700店が出店し、日用品や正月用品、骨董、食べ物、植木などが売られている。

3. 何を売っているのかな？（昭和20～30年代）



① 古着



② うすきね臼と杵



ぞうり 草履	みの 蓑
かさ 笠	ほうちょう 包丁
かま 鎌	くわ 鍬
かぼちゃ・大根・さつまいも等	だいこん
の野菜	こんぶ 魚・昆布等
ざる	わん 椀
ひしゃく 柄杓	なべ 鍋・鍋蓋
めかご 目籠	あら あらたけ たけかご (目を粗く編んだ竹籠で、中 に物を入れる道具)
ユズリハ (榦 / 植物。縁起を祝って新年の飾 り物に使う。)	おけ 桶
干大根 (ほしだいこん)	えんぎ いわ かざ 松
・漬物 (つけもの)	か



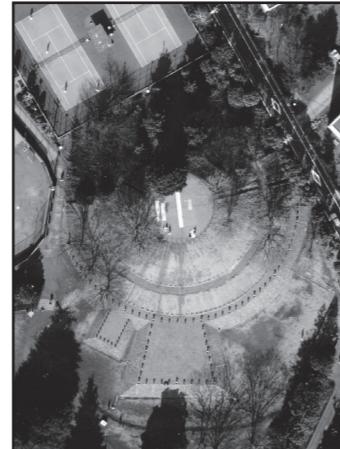
4・展示室を見よう！探そう！



①～⑨の展示物を探してみよう！
見つけたら口の中に○を書いてね。



① 鶴の形をした埴輪



はにわ
野毛大塚古墳

昔の人が土を盛ってつくった大きなお墓のことを古墳といいます。左の埴輪※は現在の玉川野毛町公園内にある野毛大塚古墳(写真右)から出てきたものです。※古墳の上や周りに並べた素焼きの土製品。



② 横穴墓に描かれた線刻画

答え

山や丘の斜面に横へ穴をほつてつくったお墓を横穴墓といいます。

親と子ども

左の絵は横穴墓の壁に描かれたものです。何が描かれているのでしょうか？答えは右の欄に書いてね。

世田谷の
原始・古代

世田谷で最も古い遺跡※は、今から3万5千年前の後期旧石器時代のものです。現在、世田谷区では300ヶ所以上の遺跡が確認されています。特に多摩川沿いの崖の上にはたくさんの遺跡があります。

※昔の人々の生活の跡が分かる場所

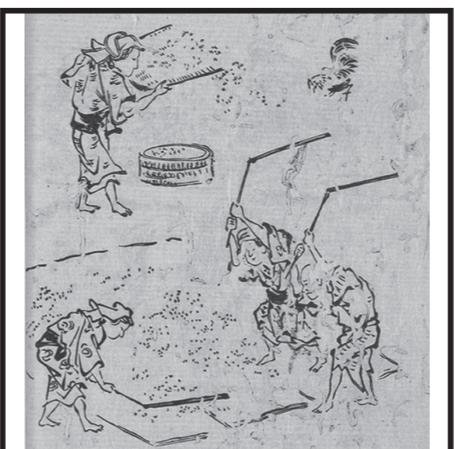


③ 奥沢神社の大蛇



現在のお練りの様子

どこにあるかな？



④ 麦の棒打ち、選別



安藤家（次大夫堀公園民家園）に貼られたお札



⑤ 大口真神のお札

これは盜難除け・魔除けの神とされる御嶽山（東京都）の大口真神のお札で、ニホンオオカミが描かれています。世田谷の農家はお札を家の出入り口や土蔵、畑の脇などに貼って泥棒から守っていました。

この蛇は藁で作られています。奥沢神社では、毎年9月にこの蛇をかついで町内会を回るお練り行事が行われています。江戸時代、藁で作った大蛇が村を回ったところ、奥沢で流行した病気が治まったという言い伝えから。

- ① 江戸時代の世田谷は、たくさんの人々が暮らす江戸の近くにあったため、地域の人々は畠でつくった野菜を江戸で売り、お金にかえることができました。世田谷には米づくりにむかない土地もあったため、村では米よりも麦・野菜を多くつくりました。
- ② 江戸に野菜を運んだ農民たちは、その帰りに江戸の人々から糞尿をくんで持ち帰り、畠の肥料としました。



⑥



⑦

江戸時代、世田谷には 42 の村があり、その内の 20 ケ村が彦根藩井伊家の領地（土地）でした。江戸時代の終わりに井伊直弼が大老（江戸幕府の重要な役職）をつとめたことでも有名です。では、⑥と⑦、どちらの肖像画（似顔絵）が井伊直弼でしょうか？下に番号を書いてね。

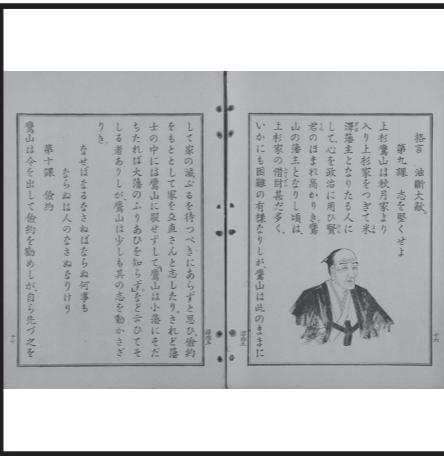
答え ⑥



⑧ 寺子屋で使った机



寺子屋は江戸時代に庶民の子どもの教育施設で、読み・書き・そろばんを教えました。この机は寺子屋に通う子どもが使いました。正座など、座って利用します。



⑨ 大正 12 年（1923）の小学校の教科書

尋常小学校は昔の小学校で、明治 19 年（1886）から昭和 16 年（1941）までありました。この教科書は尋常小学校修身の授業で使われたものです。修身は現在の道徳の授業に当たります。



当時の玉電は 1 区 3 銭で乗車できました。その頃ではかなり高額で、そば 1 杯と同じ値段でした。



⑩ 近代の三軒茶屋の模型

答え

砂利

玉電（玉川電車）は明治 40 年（1907）、三軒茶屋から二子玉川間で開通しました。これはその当時の三軒茶屋をあらわした模型です。

電車が何かを運んでいますが、何を運んでいるのかな？ヒントは多摩川にあるもので、建物をたてる時に使うものだよ。

- ① 大正 12 年（1923）の関東大震災で被害を受けた人が世田谷へ移り住みました。その後、世田谷に電車が開通し、さらに多くの人々が住むようになりました。
- ② 人が増えたことで畠は住宅にかわり、農家の数は減っていきました。
- ③ 昭和 7 年（1932）、世田谷区が成立しました。現在の区域になったのは昭和 11 年（1936）です。